

正雀下水処理場跡地まちづくり基本計画

平成27年3月

摂津市

第1章 背景

1. 吹田操車場跡地まちづくりの経過

【吹田操車場】

吹田・摂津にまたがる吹田操車場は昭和59年にその役割を終え、その後、跡地の有効利用の検討が進められ、平成18年2月、梅田貨物駅移転に伴う環境対策等の諸課題が解決されたことから、大阪府、摂津市、吹田市、鉄道・運輸機構、日本貨物鉄道株式会社の5者により「梅田貨物ターミナル駅(仮称)建設事業の着手合意協定書」を締結し、吹田操車場跡地のまちづくりが始まりました。

【土地区画整理事業】

吹田操車場跡地の土地利用転換を図り、新たなまちづくりを進めるため、平成19年11月、協定締結者の5者に、独立行政法人都市再生機構(以下「UR都市機構」という。)を加えた6者により「吹田操車場跡地地区(仮称)の整備に関する基本協定書」を締結し、土地区画整理事業による都市基盤整備が始まりました。

【吹田操車場跡地まちづくり基本計画】

平成19年6月、経済界・学識経験者・行政関係者により、「吹田操車場跡地まちづくり全体構想」が取りまとめられ、また、民間事業者や市民のアイデアを活用するため「まちづくりアイデア募集コンペ」を実施し、平成21年9月、「吹田操車場跡地まちづくり基本計画」を策定、まちづくりの基本方針を示しました。

【正雀下水処理場】

吹田操車場跡地に隣接する正雀下水処理場については、吹田操車場跡地まちづくりとの一体的な利用検討が進められ、平成25年1月、吹田市・摂津市により「吹田市正雀下水処理場の機能停止に伴う基本協定書」を締結し、同年9月に正雀下水処理場の機能が停止しました。

【国立循環器病研究センター】

平成21年から、吹田市において、吹田市藤白台にある国立循環器病研究センターの吹田操車場跡地への移転誘致が始まり、平成25年6月、国立循環器病研究センターが移転建替え方針を決定しました。また、摂津市、吹田市、国立循環器病研究センター、UR都市機構の4者により、「基本協定書」を締結し、国立循環器病研究センターを中心とする医療イノベーション拠点を発展させるため、正雀下水処理場跡地も含めた土地活用について相互に協力し協議するものとなりました。

【医療クラスター形成会議】

国立循環器病研究センターの移転用地及びその周辺地域において、医療クラスターの形成を図るため、今後の方向性について意見交換をする場として、平成26年5月、大阪府知事をはじめ、地元自治体、経済界・医療産業界、大学・研究機関、中央省庁による「医療クラスター形成会議」が開催されました。

2. 吹田操車場跡地まちづくりの現状

【都市基盤整備】

都市基盤整備は、土地区画整理事業により、平成27年度の完成を目指し事業が進められています。

岸辺駅前では、平成30年度の開院を目指し、国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院の建設が進められており、また、健康・医療のまちづくり機能を有する複合商業施設の建設も計画されています。

本市域も、都市型居住ゾーンと位置付け、多様な世代が豊かに暮らせる良好な住宅市街地の形成を目指しています。

【公園・緑地整備】

みどり豊かなまちづくりを進めるため、周辺住宅地の一時避難場所としても活用できる、防災機能を有した都市公園の整備を進めています。

また、土地区画整理事業により整備される公園や、JR貨物に沿って整備されたみどりの遊歩道を活用し、健康遊具の設置やウォーキングコースの設定など、みどり豊かな健康まちづくりを目指しています。

【健康・医療のまちづくり】

国立循環器病研究センターの移転を見据え、摂津市・吹田市・国立循環器病研究センター・両市医療関係者等で構成される「吹田操車場跡地を中心とした健康・医療のまちづくり会議」等において、国立循環器病研究センターを核とした健康・医療のまちづくりや地域医療のあり方について議論を行っており、市民の健康寿命の延伸に向けた取り組みを進めています。

経過一覧

- 平成18年2月 「梅田貨物ターミナル駅(仮称)建設事業の着手合意協定書」を締結
(大阪府、摂津市、吹田市、鉄道・運輸機構、JR貨物)
- 平成19年6月 「吹田操車場跡地まちづくり全体構想」策定
- 11月 「吹田操車場跡地地区(仮称)の整備に関する基本協定書」を締結
(大阪府、摂津市、吹田市、鉄道・運輸機構、JR貨物、UR都市機構)
- 平成21年4月 土地区画整理事業の事業計画及び施行規程の認可告示
- 平成21年9月 「吹田操車場跡地まちづくり基本計画」策定
- 平成25年1月 正雀下水処理場 機能停止の決定
- 6月 国立循環器病研究センター 吹田操車場跡地へ移転公表
- 6月 国循移転に伴う基本協定書締結
(摂津市、吹田市、UR都市機構、国立循環器病研究センター)
- 9月 正雀下水処理場 機能停止
- 平成26年5月 国立循環器病研究センターが「医療クラスター形成会議」開催
(関係自治体、経済・医療団体、大学、中央省庁が参加)
- 7月 第1回吹田操車場跡地を中心とした健康・医療のまちづくり会議(継続中)
- 11月 医療クラスター形成に係る医療系企業に対しアンケート調査を実施

第2章 正雀下水処理場跡地のまちづくり

策定の考え方

「吹田操車場跡地まちづくり基本計画」(H21. 9策定)では、正雀下水処理場跡地を「都市型居住ゾーンⅢ」と位置付け、良好な都市型居住の形成を目指しておりましたが、国立循環器病研究センター移転に伴い、正雀下水処理場跡地は同センターの拡張用地として位置付けられ、同センターを中心とした、「循環器病の予防と制圧」「最先端医療・医療技術の開発」「オープンイノベーションに連動した複合医療産業の拠点(医療クラスター)の形成」が提案されるなど、正雀下水処理場の跡地利用について非常に関心が高まっています。

また、正雀下水処理場跡地における医療クラスターの形成に係るアンケート調査では、医療関連企業の関心も高く、一定の需要が見込まれるといった結果が出ています。

本市も、国立循環器病研究センター移転決定後は、医療連携などについて、既に協議を始めており、将来の医療環境の向上に期待を寄せています。

これらの背景を踏まえ、「吹田操車場跡地まちづくり基本計画」の一部見直しを行うものとし、今回新たに、「正雀下水処理場跡地まちづくり基本計画」を策定するものです。

1. まちづくりの基本方針

医療・健康関連産業の集積による都市活力のあるまちづくり

- ◇医療産業・研究施設・健康関連産業などの集積を図り、活力あるまちづくりを目指します。
- ◇国立循環器病研究センターを中心とする、医療産業・大学・研究機関など産官学の連携を目指します。
- ◇健康・予防医療に関連する商業・サービス機能を誘導し、市民サービスの向上と健康増進を目指します。

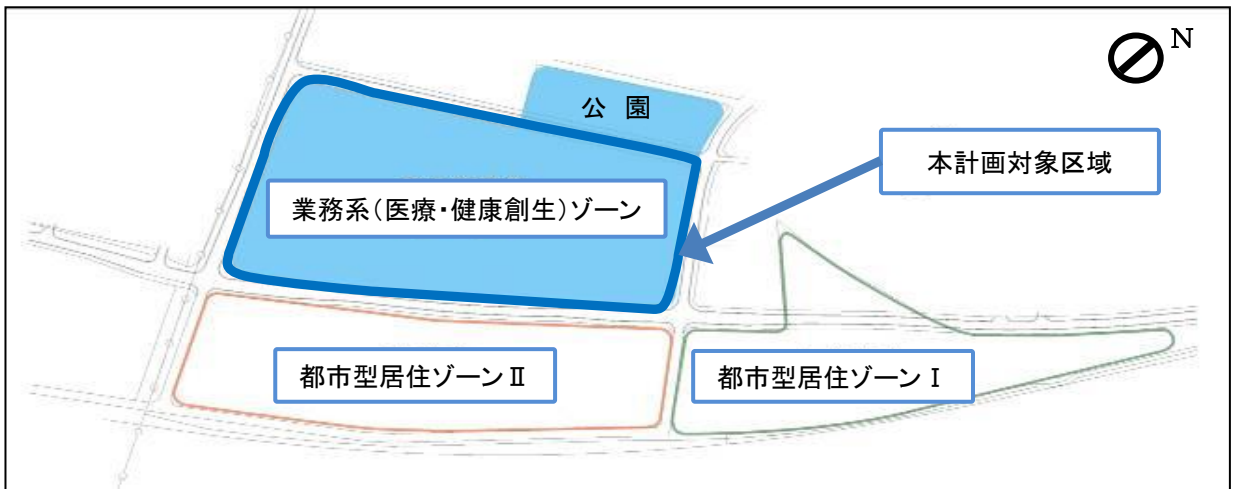
周辺住環境と調和したまちづくり

- ◇環境に配慮した産業集積を図り、周辺住環境とも調和したまちづくりを目指します。
- ◇緑化や歩行者空間の確保など、周辺地域や人にも優しい環境づくりを目指します。
- ◇周辺地域との一体感を意識した街並みや良好な景観形成を目指します。

2. まちづくりの方向性

- 正雀下水処理場跡地を業務系(医療・健康創生)ゾーンと位置付け、医療産業、研究機関、健康関連産業などの医療系産業の集積、及び、市民の健康増進に寄与する健康・予防医療に関連する、商業やサービス機能の導入により、職・住・学が享受できる街区形成を図ります。
- 土地利用のゾーニングを行うなど、周辺環境に配慮した機能的な土地利用を図ります。
- 騒音・振動など環境に配慮した産業の集積により、周辺住環境と調和を図ります。

位置図



3. まちづくりの実現に向けて

- 地区計画などを活用し、良好な街区形成を誘導します。
- 企業誘致については、周辺住環境に影響がないよう、振動・騒音等について十分な配慮を求めます。
- 土地利用にあたっては、吹田市・国立循環器病研究センター・大阪府と充分協議を行います。
- 本まちづくり基本計画に沿った土地利用となるよう吹田市に要請します。